

手足・体幹表面の 軟部肉腫治療専門施設 情報公開について

国立がん研究センターがん対策情報センターがん臨床情報部

背景：希少がん対策のこれまでの動き

H24.6 第2期がん対策推進基本計画で希少がんが記載

H26.2 国立がん研究センター希少がん対策ワークショップ

H27.3-8 ① 厚労省「希少がん医療・支援の在り方に関する検討会」

H28.3- ② 希少がん対策ワーキンググループ
四肢軟部肉腫分科会検討開始

H28.10- 眼腫瘍分科会発足・検討開始

H29.4 ③ 専門施設の募集と公開情報の準備

①「希少がん医療・支援のあり方に関する検討会」 (平成27年3月～8月)

<報告書の内容>

I. はじめに

II. 定義

- 1) 10万人あたり年間発生6例未満
- 2) 数が少ないために診療・受療上の課題が他のがん種に比べて大きい

III. 取り組むべき課題

1. 医療提供体制

2. 情報の集約・発信

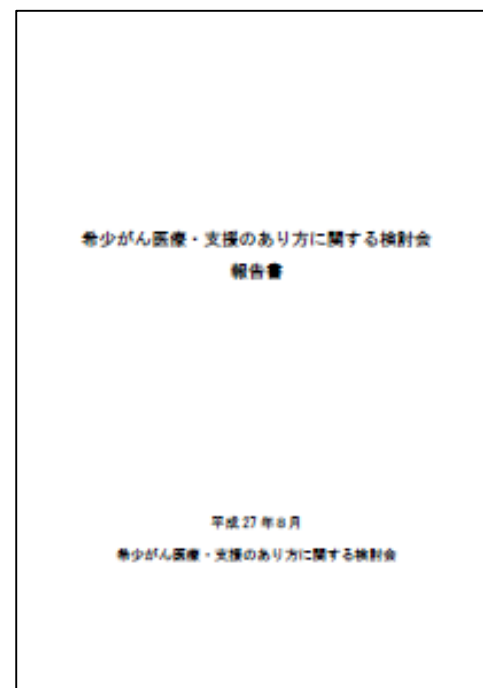
3. 相談支援

4. 研究開発

IV. 希少がん対策に関する検討の場の設置

V. おわりに

希少がん対策ワーキンググループ



②希少がん対策ワーキンググループ

(報告書より)

特定のがん種に絞って検討

- 医療提供体制、情報の集約・発信、相談支援、研究開発といった取り組みの実務的な内容を検討
- ネットワークの構築、最新情報の収集・提供
- ガイドラインの策定・普及を推進

組織

- 国立がん研究センターに事務局を置く
- 関連学会、研究者、患者団体などの関係者で構成

最初の検討対象：なぜ四肢軟部肉腫か

- 第2期「がん対策推進基本計画」では「希少がんについては、様々な希少がんが含まれる小児がんをはじめ、様々な臓器に発生する肉腫、口腔がん、成人T細胞白血病など、数多くの種類が存在する」とされている
- 軟部肉腫：
 - 希少がんの中では比較的頻度が高い
 - 年間10万人あたり3～4人程度発生
 - 患者は施設間で分散している
- 四肢に特化した理由は
 - 頻度が比較的多い
 - 部位を絞ることでネットワーク構築の必要な診療科を明確化

四肢軟部肉腫分科会委員

- 関連学会・患者会・医師会から推薦を依頼 (敬称略・50音順)

(委員長)	川井 章	国立がん研究センター中央病院希少がんセンター
(委員)	上田 孝文	大阪医療センター整形外科
	大西 啓之	NPO法人キュアサルコーマ
	押田 輝美	肉腫 (サルコーマ) の会たんぽぽ
	尾崎 敏文	岡山大学整形外科学教室
	小田 義直	九州大学大学院医学研究院形態機能病理学
	清澤 智晴	防衛医科大学校病院形成外科
	武田 真幸	近畿大学医学部附属病院腫瘍内科
	土屋 弘行	金沢大学大学院医学系研究科整形外科学
	中島 久弥	中島整形外科
	中野 隆史	群馬大学大学院医学研究科腫瘍放射線学
	並川 健二郎	国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科
	細井 創	京都府立医科大学大学院医学研究科小児発達医学
	松本 誠一	がん研究会有明病院副院長兼整形外科
	松本 光史	兵庫県立がんセンター腫瘍内科

検討課題

- 集約化について
 - 集約化の程度に関する合意は困難
 - 患者のアクセス、医師の教育など課題が山積



- 専門施設の所在や実績内容あるのかは関係者共通の関心
 - 患者や一般医療者へ情報公開すべきことは合意
 - 専門施設の条件を設定、応募による自主参加で開始

⇒ 専門施設の情報公開を行うことに決定
(他、非専門医への情報周知の方法など)

③四肢軟部肉腫専門施設の情報公開

- がん診療連携拠点病院を中心に募集、関連学会へも連絡
 - － 自主的な応募
- 一定の条件を満たすものを選定、がんセンターHPで情報公開
 - － 最低限の症例実数（3年連続1例以上）
 - － 必要な機器の整備（凍結保存など）
 - － 必要な専門家の勤務・連携体制
 - － 研究実績の存在、研究の設備・実績の公開
など。（実際の条件についてはリリースを参照）

⇒ 53施設が選定

留意点、注意

- 今回対象とした、手足・体幹表面の軟部肉腫と、内臓の軟部肉腫は診療科が異なることがあります。
- 53施設以外で治療が受けられないということではありません。
- 公表情報も変化する可能性があります。適宜更新しますが、お気づきの点はご連絡ください。